

## 健診について

### 採血

検査の目的	肝機能・貧血・炎症・脂質・血糖・ 生活習慣病では腎機能・膵機能も検査する。
使用機材及び備品	採血ケース・針(21G・22G)・エタノール・綿花・トンボ針・トンボ針アダプター ア・駆血帯・枕・ブラットバン・止血バンド・注射器・使用済み針入れ(医療バケツ) (10cc)・シップ・はさみ・マジック・依頼書・採血ホルダー・スピッツ予備 (生化・血算・血糖・鉛・血沈)
取扱いの注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースごと運び、ケース・バックはテーブルには置かない。</li> <li>・注射器、針が入っているので、保管にも十分注意する。</li> <li>・スピッツは原則として保温バック(検体入れ)に入れて運ぶ。</li> <li>・やむをえずバックに入れなくて運ぶ場合は他の荷物と一緒に持たず、単独で運ぶ。</li> <li>・直射日光の当たる場所、高温の場所には絶対置かない。</li> <li>・必ずビニールシートを敷く。</li> <li>・状況により、採血台を用意する。 (無理な体勢での採血は事故の原因となりやすいため)</li> <li>・使用済みバケツを足元に用意する。</li> <li>・使用しない物はケースに入れる。(ケースは必ず床にく。)</li> <li>・『採血』と『採血の前に～』と『採血後のバンドは～』の看板を受診者が見やすい位置に掲示する。</li> </ul>
検査の手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食後、何時間経っているかを聞く。(通常は血压で聞くが、未記入の場合) 3.5時間未満、3.5時間以上、10時間以上のいずれかに ○をつける。(飲食後の時間は記入しなくてよい)</li> <li>・ 問診票の採血時に気分が悪くなったり、しびれた事がないか確認する。 (もしある場合は、次ページ”その他留意点”を参照)</li> <li>・ 受診票の受診NoとスピッツのNoに相違がないか受診者にも確認してもらう。</li> <li>・ 針を刺す箇所をエタノール綿で消毒し、乾くまで待つ。 アルコールでかぶれたりする受診者にはノンアルコールシートを使用する。</li> <li>・ 針を刺しスピッツに採血する。</li> <li>・ 3本取り終了たら、必ずスピッツをホルダーから抜いた後に駆血帯をはずし、針を抜く。</li> <li>・ 採血後はブラットバンを貼り、止血バンドで止める。(締めすぎないように注意)</li> <li>・ シャツ袖口の圧迫を避けるよう注意する。</li> <li>・ 凝固していないか確認する(凝固しないよう必ず振る)</li> </ul>
記録方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受診票の担当印欄に押印する。</li> <li>・ スピッツに貼付されているラベルに受診番号を記入する。 (あらかじめ番号がついている場合は、受診番号と同じ番号のものを使用)</li> <li>・ 検体依頼書に、受診番号・名前・性別・血液依頼項目を記入する。 (最近依頼書は他の検査担当で書いてもらう場合がほとんどです)</li> </ul>
チェック項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血管の良く出ない人には今までどこの部位で採血をしたかを聞き、確認をする。</li> <li>・ 採血途中で気分が悪くなった場合は直ちに針を抜く。</li> <li>・ 採血後、採血部に痛みやはれが無いかを確認する。</li> <li>・ 依頼書と同じ順番に検体はならべる。</li> </ul>
受診者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 止血の徹底・事故防止・袖口の圧迫注意・無理は禁物。</li> </ul>

混雑時の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスにかけて待ってもらおう。</li> <li>・受診番号と同じ番号のスπιツツをあらかじめ受診者に手渡す。</li> <li>・責任者の指示で、手伝ってもらおう。</li> <li>・採血後の処置を他の人に手伝ってもらおう。</li> <li>・混雑しても、決して焦らないようにし、落ち着いて採血を行う。</li> </ul>
コース変更時の処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採血をしてほしい、又はしたくない→責任者に連絡する。</li> </ul>
その他留意点	<p>&lt;採血前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に採血をして気分が悪くなったことや、しびれた事がないかを聞く。 気分が悪くなった事がある→ベッドでとる しびれた事がある→以前にどちらの腕で、どの箇所がしびれたかを聞き、 その箇所以外の所で慎重に採血を行う。 採血後、しびれの有無を確認し、しびれがある場合は 直ちに実施責任者に報告する。</li> </ul> <p>&lt;採血時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホルダーへの針の装着は、必ずまわらなくなるまで行い、きちんと装着されているか確認する。</li> <li>・自信のない血管は対象としないで、自信のある血管をさがす →見つからない場合は、他の看護師に相談する。いない場合は責任者へ。</li> <li>・深く刺して血管を突き抜けないよう浅く操作する。</li> <li>・採血中は、絶対に血管をさぐったりしないよう注意する。</li> <li>・採血した血液に気を取られて袖口の圧迫を注意しないと事故 になる場合があるので注意する。</li> <li>・採血後、必ず真空管をホルダーから抜いた後に駆血帯をはずす。ホルダーに 真空管を入れたまま駆血帯をはずすと、逆流の恐れがあります。</li> <li>・採血後、痛みや気分が悪くないかを確認する。</li> <li>・採血後は廃棄バケツに捨てる。</li> <li>・どんな状況でも、リキャップは絶対にしない。</li> </ul> <p>&lt;採血後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5分間の止血を徹底する。</li> <li>・血液は暖房の室内に放置しないように注意する。</li> <li>・綿花は必ず他のゴミとはわかる。</li> <li>・当日の健診が終了後、ケースの表に貼ってある備品必要数に足りない ものは、補充箱から補充しておく。</li> </ul>
トラブル時の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採血後に腫れた受診者がでた場合は直ちに責任者に報告する</li> <li>・採血した所が腫れた →責任者に報告し、必ず医師に状態をみてもら。</li> <li>→医師の指示を受け、シツプを貼るなどする。</li> <li>・後で大きな問題になることがあるので自分だけで処置しない。</li> <li>・1回で採血することができなかった。</li> <li>→自信がないときは他の人に採ってもらおう、又はドクターに採血 してもらおう。1人に同じ人が<b>3回</b>は絶対に刺さない。</li> <li>採血者が変わる場合は、受診者の座っている場所は動かさずに、 採血者同士が場所を入れ替わる。</li> <li>・血の付いた綿が健診先の建物内に落ちていた →医療ごみとして持ち帰って破棄する。</li> </ul>
よくある質問	<p>Q: 何の検査をするの？</p> <p>A: 定期健康診断の場合・肝機能・脂質・貧血・血糖 生活習慣病の場合・上記項目+腎機能、痛風なども行う</p> <p>Q: いつも病院で採血しているのでなくてもいいですか？</p> <p>A: 責任者に連絡する。</p>